



牛群検定成績を活用しながら 長命連産性に向けた飼養管理を

情報分析センター 部長 橋口 昌弘

長命連産性の向上とは

令和に入ってから、コロナ禍による脱脂粉乳需要低迷に伴う生乳需給の緩和、ウクライナや中東の情勢、円安による資材価格の高騰など、我が国の酪農をめぐる情勢は依然厳しい状況が続いています。一方、乳用牛1頭当たりの乳量は年々増加傾向で推移しており、これまでの酪農家をはじめとした関係者による改良の成果であると言えます。このような中、酪農経営の安定を図るためには、近年課題となっている繁殖性の低下などによる供用期間の短縮を解決し、乳用牛の長命連産性の向上につながる飼養管理を目指していくことが求められています。

こうしたことから、農林水産省は(一社)中央酪農会議とともに、飼養管理改善による長命連産性向上検討会議を開催し、今般、「乳用牛の飼養管理の改善に係るチェックポイント(以下、「飼養管理改善のチェックポイント」という)」を新たに作成しました。筆者は、牛群検定成績に基づく飼養管理を推進する立場で

あり、本検討会議に委員として参加しました。今回は、この飼養管理改善のチェックポイントを紹介させていただきます。

長命連産性向上の効果

本検討会議では、農林水産省が平均除籍産次等のグラフ(図1)や供用年数を延長した試算(図2)などを示し、近年の乳用牛の飼養管理をめぐる情勢を説明しました。これらによれば、平均除籍産次は、令和2年以降年々短縮傾向で推移しており、除籍理由については、受胎しないなどの「繁殖障害」、乳房炎や乳器損傷などの「乳器障害」、肢蹄潰瘍等の「肢蹄の故障」などとなっていることがわかります。このような除籍理由となる障害を起こさないよう、長命連産性の向上につながる飼養管理を目指すことにより、乳牛償却費の低減や経営全体の出荷乳量の増加といった経営改善が期待できるとしました。

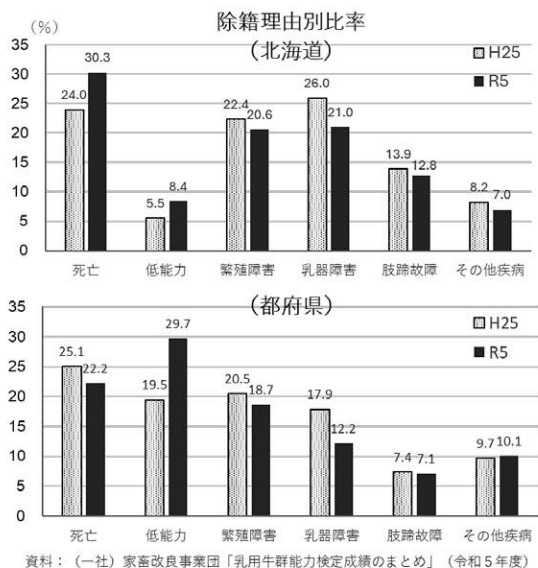
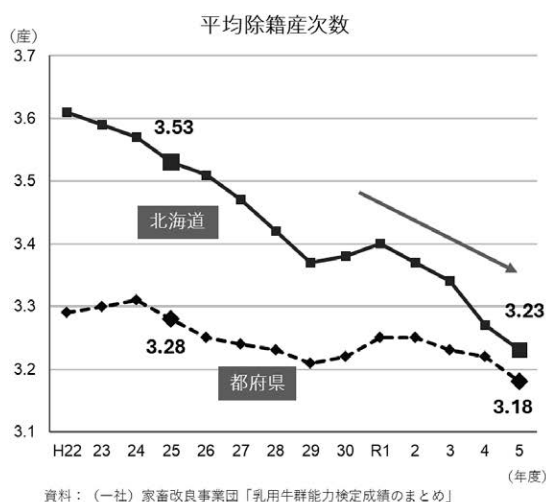


図1 平均除籍産次と除籍理由別比率

例

- ・搾乳牛の頭数を維持するためには、廃用する頭数と同じ頭数の育成牛を導入。
- ・産まれてから生乳生産を開始するまで2年要するため、毎年廃用する頭数の2倍の育成牛が必要。
- ・供用期間を延長することにより、毎年確保する初妊牛頭数の減少により乳牛償却費の低減が見込まれる

3.5年

経産牛114頭
搾乳牛100頭

廃用牛29頭
(100頭 ÷ 3.5年 = 29頭)

初妊牛29頭

4.0年

経産牛114頭
搾乳牛100頭

廃用牛25頭
(100頭 ÷ 4.0年 = 25頭)

初妊牛25頭

供用年数を
延長！

乳牛償却費として ▲574千円／年
(143千円 × (29-25) 頭)
※乳牛償却費はR5畜産物生産費統計より算出

図2 長命連産性向上の効果

飼養管理改善のチェックポイントで伝えたいところ

農林水産省でも平成27年に「乳用牛のベストパフォーマンスを実現するために」（以下「10年前のベストパフォーマンス」という）をとりまとめ、飼養管理技術の定着を呼びかけてきましたが、近年は離農の進展や飼養規模の拡大、さらにそれに伴う労働力の確保などの課題もあります。そのような中、酪農家の方々の経営改善の一助となるよう、今一度、飼養管理の重要性を呼び掛けるとともに、近年の情勢を踏まえた飼養管理改善のチェックポイントを整理することが重要だとしました。

今回の飼養管理改善のチェックポイントの検討に当たっては、

- ①10年前のベストパフォーマンスの検討当時の7つの課題に向き合い、必要な更新を行うとともに、
- ②10年前からの情勢の変化に伴い新たな課題となっている（ア）資材価格高騰の対策のための国産粗飼料の活用、（イ）夏季の暑熱対策、（ウ）搾乳ロボット等のスマート農業技術を踏まえた飼養管理を盛り込み、
- ③管理別に整理し、（ア）繁殖管理、（イ）飼養管理、（ウ）衛生管理・疾病予防、（エ）子牛・哺育管理の4つのテーマに大きく分類しました（図3）。

なお、10年前のベストパフォーマンスは、主に搾乳牛の能力の発揮を目的にしたものであり、「子牛・哺



図3 乳用牛の飼養管理の改善に係るチェックポイント（QRコード）

育管理」に触れられていなかったことから、今回新たに整理をしました。

飼養管理改善のチェックポイントの活用と今後の生産現場での普及に向けて

令和8年3月に公表された飼養管理改善のチェックポイントは文字のみの資料（図3）のため、まずは普及センターや農協、検定員などの地域における指導的な立場の皆様に、生産現場において技術指導を行う際の参考資料として取り扱ってもらいたいと考えています。我が国の乳用牛の遺伝的能力が向上しているのは前述のとおりですが、これらの遺伝的能力を十分に発揮させるためには、牛群検定成績などにより個体ごとの能力を把握し、その上での飼養管理が何よりも重要であると考えられるからです。

令和8年度の乳用牛長命連産性等向上緊急支援事業（以下「長命連産事業」という）においては、能力の高い精液等への利用を推進する事業のほか、新たな支援メニューとして本事業に参画する取組主体（農協等）が、各地域において飼養管理技術の向上のための研修会を開催する際の経費も支援できるようになっているとのことです。飼養管理改善のチェックポイント等を活用した研修会の開催についてご検討いただければと思います。

また、令和8年度の長命連産事業では、飼養管理改善のチェックポイントに記載された項目の考え方や図解（夏季の不受胎対策のフローチャート、専門用語の解説、牛舎環境整備のポイント等）などの補足資料を盛り込んで、酪農家向け普及資料の作成を行う予定です。普及資料については、農林水産省や（一社）中央酪農会議のHPへ掲載するだけでなく、農協や検定組合等への配布を行い、更なる適切な飼養管理の促進に活用をお願いいたします。